

『せとうち大三島 台海岸 いきもの・自然観察会』

実施日時：2011年9月10日（土） 10:30～15:30

参加者：22名（募集定員30名 キャンセル2名）

内容：大三島の台海岸で、午前中は自然観察会、午後は干潟の生き物観察会を行った。

10:00～受付

10:30 開始

西保護官より瀬戸内海国立公園の説明があり、その後講師の紹介、スケジュールの説明、注意事項を説明。



10:45 台海岸の自然・植物観察

◎海浜植物ハマヒルガオの説明

葉っぱは小さいが茎は地上に張り巡らされ根は地下深くまである。



◎大三島台の地形の説明

台本川は鷲ヶ頭山から台海岸へと流れており、河口は天井川となっている。

写真右上：鷲ヶ頭山

写真：ガードレール下が台本川



◎塩性湿地

愛媛県絶滅危惧 1B 類(EN)、環境省準絶滅危惧(NT)に指定されているシバナの説明。ここは海水と淡水が混ざる汽水域。塩性湿地には、メダカやアシハラガニなどの生き物も観察できた。



◎海浜植物の説明

台海岸では、台本川河口で干潟が形成される。砂浜の海浜植物と干潟の植物が混合して生育していたり、すぐ近くで見ることが出来る。

ハマゴウ、ハマサジ、ナガミノオニシバマツナなど。

ここでは、花の色の違う 2 種類のハマゴウから遺伝子の多様性について説明していただいた。



◎人工塩性湿地

水門によって出来た人工塩性湿地

ここには、愛媛県絶滅危惧 1B 類(EN)と環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されているチャボイを観察した。

芝のように生えているので見た目はショボイが名前はチャボイとおもしろく説明された。



12:30~13:20 お昼休憩

台海岸のさじきを利用し各自お昼休憩

13:40 干潟の生き物観察会

壁にくっついている生き物も上層、中層
下層で種類が違うことを説明。

上層：タマキビの一種

中層：フジツボの一種

下層：カキの一種

タマキビは暑くなると壁から一点だけで
体を支え立ち上がる。生き物たちも暑い
のは同じ。



◎探し物をしよう

この干潟には3種類のニナがいる。

自分なりに違いを見つけて3種類見つけ
る。

ウミニナとホソウミニナの違いを説明

もう1種類のフトヘナタリは下見では見
つかったが、今回は見つからなかった。



◎自由に生き物を探そう

こちらは、マテガイの巣穴に塩を入れて
取ろうとしている様子。

実際、塩を入れて出てきたマテガイを捕
まえることが出来た。

ちなみに、砂糖を入れても出てくるらし
い。



◎みんなで見つけた生き物の取りまとめ
それぞれが見つけた生き物を講師の山本さんが一つずつ解説。

- ・アシハラガニ、ヒメアシハラガニ
 - ・イカリナマコ、イソゴカイ
 - ・マテガイ、クチバガイ
 - ・ナベカ
- などなど。



みんなが一番驚いた、スジホシムシ



◎チゴガニの観察

チゴガニは影と震動によって危険を察知し、巣穴に姿を隠す。

3分間チゴガニの巣穴の前でじっとしてチゴガニを観察した。

餌を食べているものもいれば、けんかしているチゴガニも確認できた。



15:15 まとめ

大三島の自然を守る会の方々のご厚意でお茶・ジュースを準備してくださった。

アンケートを記入後・各自解散